

16. 多文化共生について（問42～問43）

問42 豊橋市には21,836人(令和7年4月1日時点)の外国人市民が共に暮らしています。お住まいの地区に外国人市民が増加することをどう感じますか。

【あてはまるものをすべて】
(n=2,493)

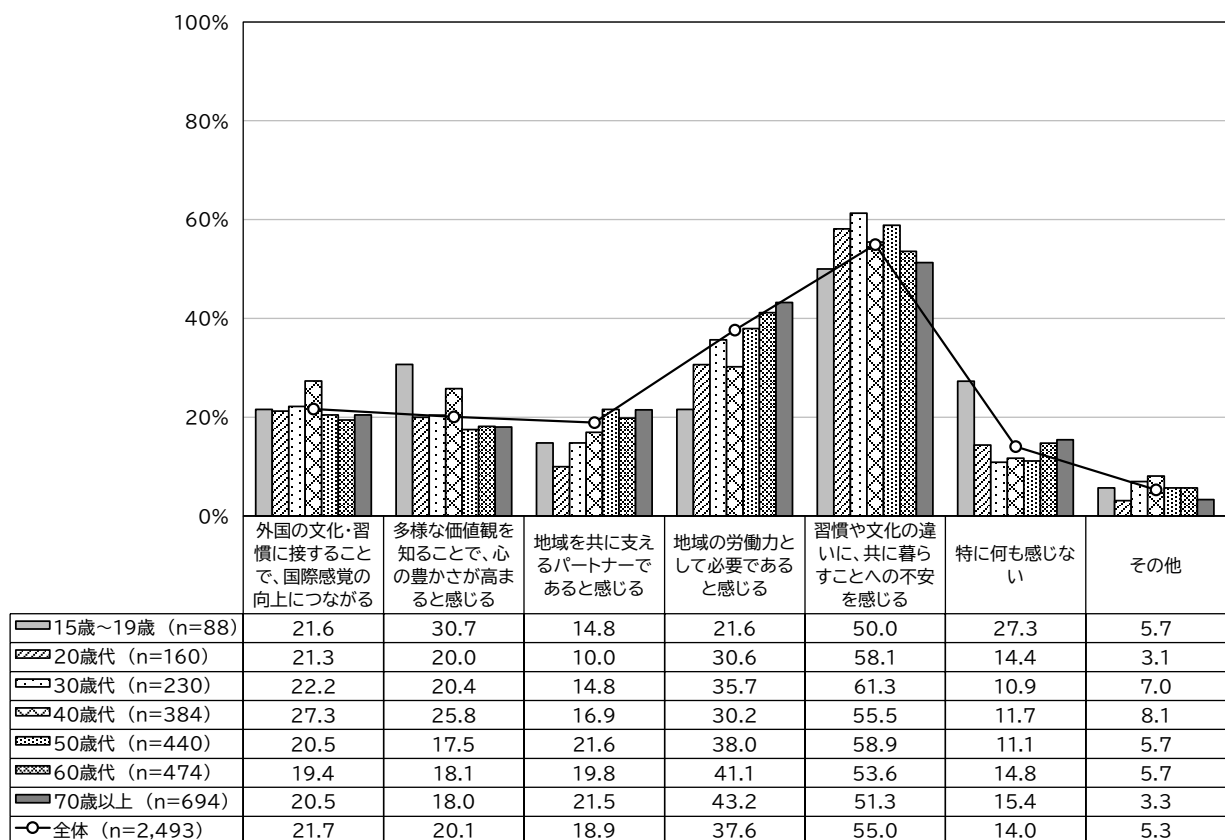
(1) 全体的傾向

「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が55.0%と最も高くなっている。次いで「地域の労働力として必要であると感じる」が37.6%となっている。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「習慣や文化の違いに、共に暮らすことへの不安を感じる」と回答した人の割合が50.0～61.3%で最も高くなっている。

なお、「地域の労働力として必要であると感じる」と回答した人の割合は、21.6～43.2%となっている。年代が上がるほど概ね高くなる傾向があり、60歳代以上では、41.1～43.2%と4割を超えている。



問43 外国人市民と共に暮らしやすい社会にしていけるためには、どのような取り組みが必要であると思いますか。

【あてはまるものをすべて】

(n=2,464)

(1) 全体的傾向

「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が84.3%と最も高くなっている。次いで「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」が48.5%となっている。

(2) 年代別にみた特性

すべての年代で、「日本の生活ルールや習慣、文化の違いについての周知」と回答した人の割合が70.5～91.1%で最も高くなっている。なお、「外国人市民のための相談体制の充実や、多言語での情報提供」と回答した人の割合が40.9～56.4%、「外国人市民への日本語の学習機会の提供、外国人市民の児童・生徒の教育の充実」が35.2～48.9%となっており、ともに高くなっている。

